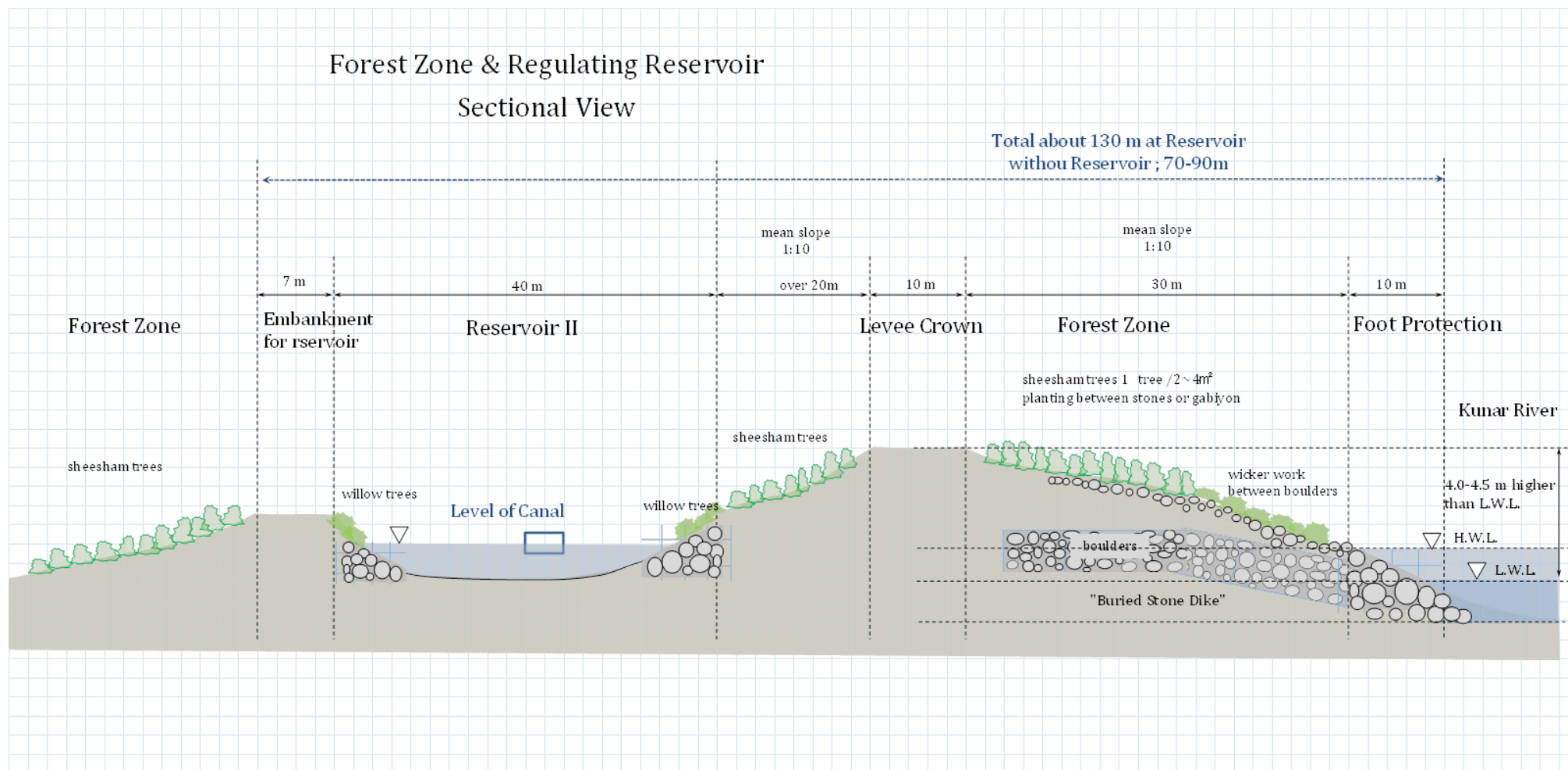




強化堤防の断面。大洪水に対して完全な防止策はなく、被害軽減を目的とする。洪水通過地点や堤防沿いは農地だけに利用し、居住を禁止する。農地復旧だけなら、洪水の流入は肥沃な土を運ぶなど、却って役立つことも少なくない。



沈砂池Ⅱの現在。自然河道（クナール河分流）は完全に閉塞され、主幹水路の基礎造成が進んでいる。強化堤防は 300m の基礎を終えた。現在沈砂池Ⅰからの送水で河床に水が流れている。工事に水が欠かせないため、必要な河道を閉めて、造成中の水路に送れる。2017年8月13日（ザイヌッラー撮影）



約 8 か月前（冬の低水位期）の同地点。高水敷は 200m 以上の幅で、夏期はかなりの水量が流れるクナール河分流であった。2016 年 12 月 16 日



強化堤防上流側。見た目は砂利の山でも、基礎は巨礫列が敷かれている。堤防は過度に高くしないが、最悪でも「緩やかな溢水」と見ている。冬期に大々的な植樹を行う。交通路も少しずつ整備され、輸送が速やかになってきた。2017年8月13日（ザイヌッラー撮影）



沈砂池Ⅱの下流側から上流を望む。沈砂池Ⅰからの主幹水路 500m が開通している。2017年8月13日（ザイヌッラー撮影）



急ピッチで進む主幹水路の基礎。先端は約 2 km地点。B 区間（沈砂池Ⅱから 3.1 km地点まで）約 1.5 kmを 5.7m の急傾斜で下る。急流で水路床を傷めないよう、途中で段状に落とし、流速を減殺する。かつ幅を 4m に狭め、堆積を防止する。



1600m 地点から上流側を望む。2017年 8月 13日 (ザイヌッラー撮影)



主幹水路基礎工事の先端は 2.5 km、目標の 3.1 km まで初秋には到着予定。地域住民が石積み作業に慣れてきたこと、水路幅が約 1m 狭められたこと、自分たちの村のためであること、などなどで、異例のスピードで進められている。2017 年 8 月 13 日（ザイヌッラー撮影）

